

◆2026年度 中学入試 第3回【社会】 正答率・問いのねらい・講評

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
1	問1	73.4%	92.9%	日本での米価の変動や日本と関わりが深い国として、アメリカ合衆国の政策などについて時事的な話題を出しながら全体の問題を構成した。問1では、グラフから正確に数値を読み取れるかどうかを問うており、データ分析には欠かせない技能として出題している。また、問3や問5(1)は過去にもよく出題している、日本の様々な都道府県別の統計を使って特徴を理解しているかを問う問題であり確実に得点してほしい。問4や問5(2)(3)では、日本社会が抱える問題として、少子高齢化や都市と交通に関する話題を問うているが、知っている社会問題から応用させて、人々の暮らしがどのように行われているかについて考え欲しい。後半は貿易に関する出題であるが、日本で消費している消費財がどこで生産されているかについて普段から関心を深めてほしい。	合格者の正答率が高かった問題は、問1であった。与えられた図表から正確に情報を読み取る力が問われており、時間が限られた中で選択肢の一つ一つの文言を注意深く読む練習が必要だからこそ、普段から新聞やテレビなどのメディアで提示される図表に関心を持ってほしい。 受験生全体の正答率が高かった問題は、日本の貿易に関する問6であり、合格者は9割の正答率であったことから、農産品や身の回りの工業製品がどのような国から輸入されたものなのか、十分に学習してきたと思われる。一方で、問4や問5(2)は日本の世帯状況や代表交通手段分担率に関する出題で、一般的な受験勉強では見慣れない資料であったうえに、問5(2)は指標と凡例の組合せを問う二段階思考が必要なものであることから、正答率が低かった。参考書のみならず、普段から日本社会が抱える課題をとりあげている記事などに関心を向け、それに対する自信の意見を言語化する時間を設けてほしい。
	問2	36.3%	40.5%		
	問3	29.0%	40.5%		
	問4	42.5%	40.5%		
	問5(1) 山形	35.1%	50.0%		
	問5(1) 神奈川	52.5%	66.7%		
	問5(2)	39.0%	57.1%		
	問5(3)	75.7%	90.5%		
	問6(1)	88.4%	90.5%		
	問6(2)	86.9%	92.9%		
	問7	68.3%	73.8%		
問8	82.6%	92.9%			
問9	56.0%	76.2%			
2	問1(1)	59.5%	59.5%	「日本列島における人びとの暮らし」に関する歴史について、小学校学習程度の基本的な歴史的事項に関する理解が定着しているかどうかを問う問題を出題した。問1(2)、問2(2)、問4(2)、問5(2)のような習得した基本的な知識とその内容の理解を組み合わせ判断する問題の出題率は概ね良好であるが、合格者と全生徒の正答率では差が見られた。全体的に設問文の分量は多いものの、問題を丁寧に読み取る技能が不可欠であることがわかる。 20ポイント近く差がついた問題（問2(1)C、問3(3)I）は提示された資料文から解答する条件を適切に読み取ることができたかどうかで差がついたと考えられ、同様に丁寧に読み取る技能が不可欠であることを示している。	まず、小学校で学習する基本的な歴史的事項をきちんと定着させることが大切だ。たとえ塾などで「ひらがなでも丸にします」と言われていたとしても、ふだんから漢字で覚える習慣をつけよう。中学入学後は漢字で答えることが前提なので、「漢字で答えよ」といった指示はない。特殊な勉強は役に立たなくなってしまう。 そのうえで、知識が定着しているかどうか、問題演習をして確認してほしい。一問一答的な問題集では、入試問題で活用する知識に高めることは難しい。また、問題演習用の参考書とともに過去問を活用するとよい。「覚えてから解く」こともあるが、「解いて覚える」こともたくさんある。
	問1(2)	89.6%	92.9%		
	問2(1)C	54.1%	73.8%		
	問2(1)D	79.5%	90.5%		
	問2(2)	84.6%	90.5%		
	問3(1)	40.5%	38.1%		
	問3(2)	13.1%	16.7%		
	問3(3)I	66.8%	85.7%		
	問3(3)J	32.8%	40.5%		
	問4(1)	50.2%	64.3%		
	問4(2)	67.2%	78.6%		
	問4(3)	24.3%	26.2%		
	問5(1)	50.6%	57.1%		
問5(2)	75.3%	85.7%			
問5(3)	63.7%	66.7%			
3	問1	48.3%	71.4%	選挙を題材として、公的・私的の政治分野を中心に、公民的分野の政治分野を中心に、出題した。問1、問2(1)、問2(2)、問6は基本的事項を確認した。問2(1)については、正しいものがいくつあるかを問うたので、前述したほかの問題よりも難易度はあがっている。問3の地方自治や問4の社会保障の問題は、例年受験生が手薄になる単元になるが、基本的事項を確認した。問5の議席数の問題は覚えてきた知識と問のリード文を読むことによって答えを導き出せるため、問題をきちんと読んでいるかを確認した。問8はこれから選挙権を持つ受験生に実際に注意して欲しいという思いを込めた問題である。日ごろからSNSの使い方やメディアリテラシーについてニュースなどを見ているか、こういったことを考えているかを確認した。	過去問を演習すれば出ている基本的事項で、今回正答率が高かったものは、憲法改正についての問2(2)のみであった。内閣のしくみや仕事(問1)、地方自治(問3)、税の種類(問6)など、公民の基本的事項を満遍なく学んできてほしい。問2(1)のように正文の個数を問われたり、問5のように覚えてきた知識をリード文と照らし合わせて解答を導いたりするような問題も正答率が低くなった。覚えてきたものをただアウトプットするのではなく、活用する能力も必要である。
	問2(1)	48.3%	59.5%		
	問2(2)	87.6%	95.2%		
	問3	49.8%	54.8%		
	問4	69.9%	73.8%		
	問5D	35.1%	69.0%		
	問5F	90.0%	95.2%		
	問6	58.3%	83.3%		
	問7	41.7%	47.6%		
問8	81.1%	83.3%			